

第六輯 產婆規則

ハ醫師ノ診察ヲ請ハシムヘシ自ラ其ノ處置ヲ爲スコトヲ得ス但
シ臨時救急ノ手當ハ此ノ限ニ在ラス
第八條 產婆ハ妊娠產婦ヲ接産シ胎兒生見ニ對シ外科手術ヲ行ヒ
產科器械ヲ用キ藥品ヲ投與シ又ハ之ヲ指示ヲ爲スコトヲ得ス但
シ消毒ヲ行ヒ臍帶ヲ切リ瀉腸ヲ施スノ類ハ此ノ限ニ在ラス
第九條 產婆ハ產婆名簿ニ登錄ヲ受ケタル者ニ妊娠產婦ヲ接産シ
胎兒生見ノ取扱ヲ專任スルコトヲ得ス
第九條ノ二 產婆ハ自ラ檢案セシテ死産證書又ハ死胎檢案書ヲ
交付スルコトヲ得ス
第十條 產婆ニシテ墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪又ハ禁錮以上
ノ刑ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シタルトキハ地方長官ハ產婆ノ業ヲ
禁止シ又ハ一年以内之ヲ停止スルコトヲ得
產婆名簿登錄前ニ犯シタル罪ニ付テモ同シ
第十一條 試驗ニ關スル規程ニ違背シタル者アルトキハ其ノ試驗
ヲ無効トスルコトヲ得若シ既ニ登錄ヲ受ケタルトキハ其ノ登錄
ヲ取消スコトヲ得
第十二條 地方長官ハ產婆ノ業ヲ禁止シ又ハ停止シタル後本人ノ
行狀ニ依リ其ノ禁止又ハ停止ヲ解除スルコトヲ得
第十三條 產婆試驗ヲ受ケタル者又ハ產婆名簿ニ登錄ヲ願出
タル者ニシテ試驗又ハ登錄ノ以前墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル
罪禁錮以上ノ刑ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シタル者又ハ試驗ニ關ス
ル規程ニ違背シタル者ナルトキハ試驗又ハ登錄ヲ許可セザルコ
トヲ得

五八二

第十四條 產婆ニシテ三箇年間其ノ業ヲ營マサルトキ又ハ痼癩白
痴不具癡疾ト爲リ其ノ業ヲ營ムニ堪ヘスト認ムルトキハ地方長
官ハ產婆名簿ニ登錄ヲ取消スコトヲ得
第十五條 產婆名簿ニ登錄ノ取消、主要ナル登錄事項ノ訂
正並產婆業ノ禁止又ハ停止及其ノ解除ハ地方長官之ヲ指示スヘ
シ
第十五條ノ二 產婆試驗及產婆名簿ニ關スル費用ハ樺太ニ於ケル
モノヲ除クノ外北海道地方費及府縣ノ負擔トス
第十六條 左ニ掲グル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
一 產婆名簿ニ登錄ヲ受ケシテ產婆ノ業務ヲ爲シタル者
二 產婆名簿ノ登錄ヲ取消サレタル後產婆ノ業務ヲ爲シタル
者
三 產婆ノ業ヲ禁止又ハ停止セラレタル後產婆ノ業務ヲ爲シタ
ル者
四 第三條ニ關シ虛偽ノ證明又ハ陳述ヲ爲シタル者
五 第七條乃至第九條ノ二ニ違背シタル者
第十七條 第四條第三項、第五條第二項及第六條ニ違背シタル者
ハ科料ニ處ス
第十七條ノ二 本令ノ樺太ニ於ケル適用ニ付テハ內務大臣トアル
ハ內閣總理大臣、地方長官トアルハ樺太廳長官トス
附 則
第十八條 本令施行以前內務省又ハ地方廳ヨリ產婆ノ免狀又ハ監
札ヲ受ケ現ニ其ノ業ヲ營ム者ハ本令施行後六箇月以内ニ地方長

官ニ願出テ產婆名簿ニ登錄ヲ受ケルコトヲ得
第十九條 地方長官ハ產婆ニシテ此地ニ限リ當分ノ内出願者ノ履
歷ニ依リ業務ノ地域及五箇年以内ノ期限ヲ定メ產婆ノ業ヲ免許
スルコトヲ得
前項ノ免許ヲ受ケタル者ハ產婆ニ準シ本令ヲ適用ス但シ產婆名
簿ニ登錄スル限ニ在ラス
第二十條 本令ハ明治三十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○看護婦規則(大正四年六月)參考

第一條 本令ニ於テ看護婦ト稱スルハ公衆ノ需ニ應ジ傷病者又ハ
弱婦產婦ノ業務ヲ爲ス女子ヲ謂フ
第二條 看護婦タルトスル者ハ十八年以上ニシテ左ノ資格ヲ有
シ地方長官(東京府ニ於テハ警視總監以下之ニ依リ)ノ免許ヲ
受ケルコトヲ得ス
一 看護婦試驗ニ合格シタル者
二 地方長官ノ指定シタル學校又ハ講習所ヲ卒業シタル者
三 大正五年(四月)關東都府令第十六號看護婦規則第二條第
二號又ハ第三號ノ資格ニ依リ關東長官ノ免許ヲ受ケタル者
四 大正十一年(五月)朝鮮總督府令第七十六號看護婦規則第一
條第一號乃至第三號ノ資格ニ依リ道知事ノ免許ヲ受ケタル
者
地方長官免許ヲ與フルトキハ看護婦免狀ヲ下付ス
第三條 精神病者、傳染性ノ疾患アル者又ハ素行不良ト認ムル者
第六輯 看護婦規則

ニハ免許ヲ與ヘサルモノトス
第四條 看護婦試驗ハ地方長官之ヲ施行ス
試驗科目ハ左ノ如シ
一 人體ノ構造及主要器官ノ機能
二 看護方法
三 衛生及傳染病大意
四 消毒方法
五 綿帶術及治療器械取扱大意
六 救急處置
第五條 一年以上看護ノ學術ヲ修業シタル者ニアラザレハ看護婦
試驗ヲ受ケルコトヲ得ス
第六條 看護婦ハ主治醫師ノ指示アリタル場合ノ外被看護者ニ對シ
治療器械ヲ使用シ又ハ藥品ヲ授與シ若シ之ヲ指示ヲ爲スコトヲ
得ス但臨時救急ノ手當ハ此ノ限ニ在ラス
第七條 看護婦其ノ住所ヲ他ノ道府縣ニ移シタルトキハ十日以内ニ
免狀ノ寫ヲ添ヘ後ノ住所地ノ地方長官ニ届出ツヘシ
前項ノ場合ニ於テ後ノ住所地ノ地方長官ハ其ノ旨ヲ前ノ住所地
ノ地方長官ニ通知スヘシ
第八條 看護婦免狀ヲ毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ二十
日以内ニ住所地ノ地方長官ニ再下付テ願出ツヘシ但毀損ノ場合ニ
ハ毀損シタル免狀ヲ添附スヘシ
族籍氏名ニ變更ヲ生シ又ハ生年月日ノ訂正ヲ要スルトキハ其ノ
事由ヲ記シ二十日以内ニ免狀ヲ添ヘ地方長官ニ書換テ願出ツヘ

五八三

第六輯 按摩術營業取締規則

亡失シタル免狀ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ地方長官ニ提出ス
第九條 看護婦營業シタルトキハ二十日以内ニ免狀ヲ住所ノ地方長官ニ返納スヘシ
看護婦三年以上其ノ業務ヲ怠マサルトキハ廢業シタルモノト看做ス
看護婦死亡シ又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキハ戶籍法ニ依ル屆出義務者ヨリ二十日以内ニ免狀ヲ返納スヘシ
第一項及第三項ノ場合ニ於テ免狀ヲ返納スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ届出ツヘシ
第十條 看護婦第三條ニ該當シ又ハ業務ニ關シ犯罪者ハ不正ノ行為アリタルトキハ住所ノ地方長官ハ期日ヲ定メ其ノ業務ヲ停止シ又ハ免狀ヲ取消シ免狀ヲ返納セシムルコトアルヘシ
本條ノ取消處分ヲ受ケタル看護婦疾病治癒シ又ハ改悔ノ情願著ナルトキハ再免狀ヲ與フルコトヲ得
第十一條 免狀ヲ受ケスシテ看護ノ業務ヲ爲シ若ハ停止中其ノ業務ヲ爲シタル者又ハ第六條ノ規定ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
第十二條 第七條第一項第八條又ハ第九條ノ規定ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス
附 則
本令ハ大正四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

五八四

本令施行前地方長官ニ於テ與ヘタル免狀、免許狀、免許證ハ本令ニ依リ下付シタル看護婦免狀ト看做ス
本令施行ノ際現ニ地方長官ノ看護婦名簿ニ登錄ヲ受ケ居ル者ハ本令ニ依リ免狀ヲ受ケタル者ト看做シ看護婦免狀ヲ下付ス
本令發布ノ際現ニ看護ノ業務ヲ爲ス者ニシテ本令施行後三月内ニ届出シタルトキハ地方長官ハ廢業ヲ審査シ試験ヲ要セス免狀ヲ與フルコトヲ得
前項ノ免狀ハ本令第二條ニ依リ免狀ト同一ノ效力ヲ有スルモノトス
地方長官ハ第二條ノ資格ヲ有セサル者ニ對シ當分ノ内其ノ廢業ヲ審査シ看護ノ業務ヲ免許シ看護婦免狀ヲ下付スルコトヲ得
看護婦及男子タル看護人ニ對シテハ本令ノ規定ヲ準用ス

○按摩術營業取締規則

(明治四十四年八月)

第一條 按摩術(「マツサージ」術ヲ含ム以下之ニ依リ)營業ヲ爲サントスル者ハ試験合格證書又ハ地方長官ノ指定シタル學校若ハ講習所ノ卒業證書ヲ添ヘ住所ノ地方長官(東京府ニ於テハ警視廳以下之ニ依リ)ニ届出テ免狀ヲ受ケルヘシ
第二條 精神病者、傳染性ノ疾患アル者又ハ業行不良ト認ムル者ニハ免狀ヲ交付セサルモノトス
禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ニハ免狀ヲ交付セサルコトアルヘシ

第三條 按摩術ノ試験ハ地方長官之ヲ舉行ス

試験ヲ分テ甲種及乙種トス其ノ試験科目ハ左ノ如シ

甲 種

- 一 人體ノ構造及主要器官ノ機能
- 二 按摩方式及身體各部ノ按摩術
- 三 消毒法大意
- 四 按摩術ノ實地

乙 種

乙種ハ按摩術ノ實地ヲ行フノ外甲種試験ノ各科目ニ付簡易試驗ヲ行フモノトス
第四條 甲種試験ハ四箇年以上按摩術ヲ修業シタル者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

乙種試験ハ官人ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス但シ二箇年以上ノ修業經歷アルコトヲ要ス

第五條 營業者ハ何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス流儀名又ハ卒業シタル學校、講習所ノ名稱若ハ修業ノ證明ヲ與ヘタル教師ノ氏名ヲ除ク外業務上其ノ技能、施術方法又ハ經歷ニ關スル廣告ヲ爲スニトシ得ス

第五條ノ二 營業者ハ脱臼又ハ骨折ノ患部ニ施術ヲ爲スコトヲ得ス但シ醫師ノ同意ヲ得タル病者ニ就テハ此ノ限リニ在ラス

第五條ノ三 地方長官ノ指定シタル學校若ハ講習所ニ於テ「マツサージ」術ヲ修業シ又ハ「マツサージ」術ノ試験ニ合格シ免狀ヲ受ケタル者ニ非サレハ「マツサージ」術ヲ標榜スルコト

第六輯 按摩術營業取締規則

五八五

テ得ス

第六條 營業者其ノ住所ヲ他ノ道府縣ニ移シタルトキハ十日以内ニ免狀ヲ添ヘ住所ノ地方長官ニ届出ヘシ

前項ノ場合ニ於テ住所ノ地方長官ハ其ノ旨ヲ前ノ住所ノ地方長官ニ通知スヘシ

第七條 營業者免狀ヲ毀損シ失シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ二十日以内ニ住所ノ地方長官ニ再下付ヲ届出ヘシ

族籍、氏名ニ變更ヲ生シ又ハ生年月日ノ訂正ヲ要スルトキハ其ノ事由ヲ記シ二十日以内ニ免狀ヲ添ヘ地方長官ニ書換ヲ届出ヘシ

亡失シタル免狀ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ地方長官ニ提出スヘシ

第八條 營業者廢業シタルトキハ二十日以内ニ免狀ヲ住所ノ地方長官ニ返納スヘシ若シ免狀ヲ返納スルコト能ハサル事由アルトキハ其ノ事由ヲ届出ヘシ

營業者死亡シ又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキハ戶籍法ニ依リ屆出義務者ヨリ二十日以内ニ免狀ヲ返納スヘシ

第九條 營業者第二條ニ該當シ又ハ業務上犯罪者ハ不正ノ行為アリタルトキハ住所ノ地方長官ハ期日ヲ定メ其ノ業務ヲ停止シ又ハ免狀ヲ取消シ免狀ヲ返納セシムルコトアルヘシ

本條ノ取消處分ヲ受ケタル看護婦疾病治癒シ又ハ改悔ノ情願著ナルトキハ再免狀ヲ交付セサルコトヲ得

第十條 免狀ヲ受ケスシテ看護ヲ爲シ若ハ停止中營業ヲ爲シ